

平成30年 5月22日

報告番号 乙	第 号	氏 名	柿木 寛明
審 査 員	主 査	柳 栄三朗	
	副 査	青木 洋介	
	副 査	二見 裕次	
論文題名	<p>題 名 Risk factors for uroseptic shock in patients with urolithiasis-related acute pyelonephritis</p> <p>雑誌名, 巻 (号のみの雑誌は号), 頁-頁, 発行西暦年 Urologia Internationalis, 100, 37-42, 2018</p>		
論文審査 結果の要旨	<p>本論文は、結石性腎盂腎炎の患者が敗血症性ショックに至るリスク因子を分析した内容であり、2005年1月から2012年12月の期間に結石性腎盂腎炎により当院で入院加療を行った69人の患者（女性41人、男性28人）を対象とし、敗血症性ショックに至るリスク因子を、後方視的に分析した。その結果、敗血症で昇圧剤を必要としたのは25例で、昇圧剤を必要としなかった群に比べ、血清アルブミンが有意に低く、CRP値が有意に高かった。多変量解析でも血清アルブミン値とCRP値は敗血症性ショックの有意なリスク因子だった。解析内容から血清アルブミン値は結石性腎盂腎炎患者が敗血症性ショックに至る有意なリスク因子であり、血清アルブミン低値を呈する結石性腎盂腎炎症例では、尿路閉塞に対する迅速なドレナージを行うことが望ましいと考察している。</p> <p>敗血症性ショックは予後を規定するのみならず、後遺障害の合併、退院後のQOLの低下にもつながり、リスク因子の評価が迅速かつ適切な敗血症性ショックの予防対策につながれば意義が大きいと考えられる。 よって本論文は、博士(医学)の学位論文として価値あるものと認めた。</p>		
学力の確認の 結果の要旨	<p>最終試験において、各審査員より専門的な観点から論文内容及びこれに関連した事項について種々質問を行ったが、いずれについても適切な回答を得た。</p> <p>よって、審査員合議のうえ、本研究科博士課程を修了したものと同等以上の学力があるものと判定した。</p>		
論文審査の結果	<input checked="" type="radio"/> 合格 <input type="radio"/> 不合格	学力の確認の結果	<input checked="" type="radio"/> 合格 <input type="radio"/> 不合格
論文審査日	平成30年 5月22日	最終試験日	平成30年 5月22日

平成30年5月14日

報告番号 乙	第 号	氏 名	山本 忍
審 査 員		主 査	田中恵太郎
		副 査	江口 有一郎
		副 査	尾崎 若大
論文題名	題 名 Concentration determination of urinary metabolites of N,N-dimethylacetamide by high-performance liquid chromatography-tandem mass spectrometry 雑誌名, 巻 (号のみの雑誌は号), 頁一頁, 発行西暦年 Journal of Occupational Health, 60(2), 140-147, 2018		
論文審査 結果の要旨	<p>本論文は、産業界で溶媒等として広く使用されているN,N-ジメチルアセトアミド(DMAC)とその代謝産物の尿中4成分の新しい同時測定法の開発について述べている。DMACはラットにおいて発癌性が確認され、ヒトでも肝毒性を示す事が報告されており、労働者における暴露状況について生物学的モニタリングが必要であるが、従来法のガスクロマトグラフ法は精度が低いことが指摘されていた。</p> <p>これによると、測定成分はDMAC、N-ヒドロキシメチル-N-メチルアセトアミド、N-メチルアセトアミド、S-(アセトアミドメチル)メルカプツール酸の4成分とした。高速液体クロマトグラフ-質量分析計を用い、分析条件および測定精度を検討した。尿を移動相で10倍希釈し1 μL注入した。イオン化法はESI法とした。分析カラムはC18の逆相ODSカラムが分離良好で、移動相は10 mMギ酸とメタノールのグラジエント条件とした。本法での定量下限は最大0.05 mg/L、測定法の真度は96.5-109.6%、精度は3.43-10.31%と良好な結果が得られた。</p> <p>以上の成績は、尿中DMACおよびその代謝産物を低濃度まで精度良く測定できる新しい方法を開発したものであり、意義あるものと考えられる。よって本論文は</p>		
学力の確認の 結果の要旨	<p>学力の確認は口頭試問により行った。博士(医学)の論文として価値あるものと認められた。</p> <p>産業衛生学に関し、種々質問を行い、特に尿中化学物質の分析法について詳しい説明を求めたが、いずれについても満足すべき答弁を得た。</p> <p>また、専攻学術に関しても大学院博士課程を終えて学位を授与される者と同等以上の学識を有し、かつ、研究指導する能力も十分であることを認めた。</p> <p>外国語は英語について試問を行ったが、外国語文献を自由に利用しうる能力があることを認めた。</p> <p>よって、審査員合議のうえ、本研究科博士課程を修了したものと同等以上の学力があるものと判定した。</p>		
論文審査の結果	合格	不合格	学力の確認の結果
			合格
論文審査日	平成30年5月14日		最終試験日
			平成30年5月14日

学位論文審査及び学力の確認の結果等報告書

平成 30年 6月 8日

報告番号 乙	第 号	氏 名	池邊 智史
審 査 員	主 査	井上 聡	
	副 査	上村 哲司	
	副 査	浅見 豊子	
論文題名	題 名 Total hip arthroplasty following Girdlestone arthroplasty 雑誌名, 巻 (号のみの雑誌は号), 頁-頁, 発行西暦年 Journal of Orthopaedic Science, 23 (3), 532-537, 2018		
論文審査 結果の要旨	<p>【研究の目的】化膿性股関節炎 (SA) および、人工股関節全置換術 (THA)、人工骨頭挿入術 (BHA) 後感染に対する切除関節形成術 (GA) は、感染制御という点で有効な手術であるが、その後のQOLは満足のものではない。しかし、GA 後症例に対する THA は難易度が高く、股関節外科分野における挑戦的手術の一つである。そのため、GA 後症例に対する THA に関する成績の報告は少ない。SA と THA、BHA 後感染は病態が大きく異なるが、両者を比較した報告もない。今回、上記2群について GA 後の THA の成績を調査・比較検討した。</p> <p>【方法】19例19股 (SA 群12股、infected THA、BHA 群7股) について後ろ向きに調査した。【結果】Japanese Orthopaedic Association (JOA) hip score は術前後で比較し、平均50点から80点と有意に改善していた。術中、術後合併症は11股に生じ、術中骨折1股、深部感染6股、脱臼7股、カップの弛み1股であった。感染は infected THA、BHA 群で5股あり、SA 群の1股に対して有意に高率であった。【考察】GA 後症例に対する THA の臨床成績は比較的良好であったが、感染の再燃などいくつかの合併症を認めた。また、infected THA、BHA 群では術後 JOA hip score が SA 群に比して有意に低く、THA 後の感染率が SA 群に比して有意に高かった。【結論】GA 後 THA の感染リスクは31.6%であったが、94.7%の症例で感染鎮静化、人工関節温存ができた。GA 後症例に対する THA は患者 QOL の改善に有効な術式であるが、infected THA、BHA 群では術後感染が問題である。抗生剤含有セメントモールドを用いた二次的再置換、抗菌インプラントなどを併用し、さらに良好な結果を獲得できると考えた。以上の研究は GA 後 THA に関連した合併症を、原因疾患として SA あるいは THA 及び BHA 後感染かによって比較した初めての報告であり意義あるものと考えられる。よって、本論文は博士 (医学) の学位論文として価値あるものと認めた。</p>		
学力の確認の 結果の要旨	<p>学力の確認は口頭試問により行った。</p> <p>専攻学術に関することを中心に、種々の質問を行い詳細な説明を求めたが、いずれについても適切な答弁を得ることができ、大学院博士課程を終えて学位を授与される者と同等以上の学識を有し、かつ研究指導する能力も十分であることを認めた。</p> <p>外国語は英語の試験結果をもとに外国語文献を自由に利用しうる能力があると判断した。よって、審査員合議のうえ、本研究科博士課程を修了した者と同等以上の学力があるものと判定した。</p>		
論文審査の結果	合格 不合格	学力の確認の結果	合格 不合格
論文審査日	平成 30年 6月 8日	最終試験日	平成 30年 6月 8日

学位論文審査及び学力の確認の結果等報告書

平成 30年 6月 13日

報告番号 乙	第 号	氏 名	原口祥典
審 査 員	主 査	阿部 貴也	
	副 査	山原 貞裕	
	副 査	池田 義孝	
論文題名	<p>題 名 Donepezil suppresses intracellular Ca_v mobilization through the PI3K pathway in rodent microglia.</p> <p>雑誌名, 巻 (号のみの雑誌は号), 頁-頁, 発行西暦年 J Neuroinflammation. 2017 Dec 22;14(1):258.</p>		
論文審査 結果の要旨	<p>アルツハイマー病は、脳内ミクログリアを介した炎症が関与することが知られており、炎症性サイトカインやNO(nitric oxide)放出などミクログリア機能については細胞内Ca²⁺が重要とされている。本研究では認知症治療薬、アセチルコリンエステラーゼ阻害剤のドネペジルの効果について検討した。ラット由来のHAPI細胞ならびにマウス由来の初代培養ミクログリア細胞を用い検討をおこなった。これらの細胞にドネペジルを前処置すると、TNFαによる細胞内Ca²⁺濃度上昇抑制効果が観察され、これはPI3K(Phosphoinositide 3-kinase)系が関与することが示唆された。またDAF-2のイメージングでは、ドネペジルはTNFαによって誘発されるNOの産生を抑制した。さらには、ドネペジルはPI3Kを介してミクログリア細胞の食食能を促進することが分かった。</p> <p>以上のことから、ドネペジルはPI3Kを介してミクログリア細胞のCa²⁺動態、食食能を制御し、脳保護に作用することが示唆された。</p> <p>よって本論文は、博士(医学)の学位論文として価値あるものと認めた。</p>		
学力の確認の 結果の要旨	<p>学力の確認は口頭試問により行った。</p> <p>認知症学に関し種々質問を行い、特にドネペジルのミクログリア細胞における作用について詳しい説明を求めたが、いずれについても満足すべき答弁を得た。</p> <p>また、専攻学術に関しても大学院博士課程を終えて学位を授与される者と同等以上の学識を有し、かつ、研究指導する能力も十分であることを認めた。</p> <p>外国語は英語について試問を行ったが、外国語文献を自由に利用しうる能力があることを認めた。</p> <p>よって、審査員合議のうえ、本研究科博士課程を修了したものと同等以上の学力があるものと判定した。</p>		
論文審査の結果	<input checked="" type="checkbox"/> 合格	<input type="checkbox"/> 不合格	学力の確認の結果
論文審査日	平成 30年 6月 13日		最終試験日
			平成30年 6月13日

学位論文審査及び学力の確認の結果等報告書

平成30年 8月14日

報告番号 乙	第 号	氏 名	倉田 毅
審 査 員	主 査	松尾 宗明	
	副 査	松山 正彦	
	副 査	下村 晋也	
論文題名	題 名 Physiological and pathological clinical conditions and light scattering in brain 雑誌名, 巻 (号のみの雑誌は号), 頁一頁, 発行西暦年 Scientific reports, 6/31354, 2016		
論文審査 結果の要旨	<p>【目的】近赤外線分光法は非侵襲的に脳の代謝を測定する方法で、新生児での評価にも適用される。本研究の目的は、新生児において換算散乱係数 (μ_s') と関連する内的、外的要因を探索することである。【方法】生後7日以内の新生児60名を対象とした。測定は、近赤外線時間分解分光法 (TR-NIRS) を用い測定した。1) 産前の母子に関する情報 (ステロイド投与の有無、帝王切開の有無など)、2) 出産時及び入院時の情報 (Apgar スコアなど)、3) 測定時の情報 (測定時の児の状態) について、μ_s' との関連を検討した。【結果】単変量解析では、内的要因 (妊娠週数、児の頭囲) 及び外的要因 (出産前ステロイド投与、緊急帝王切開、児の呼吸器使用、Apgar スコア、臍帯血ガスの pH と PO₂、測定時の児の血液ガスの HCO₃⁻) が μ_s' と関連した。多変量解析では、妊娠週数、児の人工呼吸器使用、測定時の児の血液ガスの HCO₃⁻ が関連した。</p> <p>【考察】μ_s' と関連する要因の中に病的な状況と関連するものがみられたことより、μ_s' は脳の生理的成熟だけでなく、病的な脳の構築変化も反映している可能性がある。近赤外線分光法は、新生児において微細な脳損傷を非侵襲的に発見するツールになる可能性がある。以上の研究は、新生児医療における、近赤外線分光法の臨床応用の可能性を示唆するものであり、意義あるものと考えられる。</p> <p>よって本論文は、博士 (医学) の学位論文として価値あるものと認めた。</p>		
学力の確認の 結果の要旨	<p>学力の確認は口頭試問により行った。周産期医学に関し、種々質問を行い、特に新生児神経学について詳しい説明を求めたが、いずれについても満足すべき答弁を得た。また、専攻学術に関しても大学院博士課程を終えて学位を授与される者と同程度以上の学識を有し、かつ、研究指導する能力も十分であることを認めた。</p> <p>外国語は英語について試問を行ったが、外国語文献を自由に利用しうる能力があることを認めた。よって、審査員合議のうえ、本研究科博士課程を修了したものと同等以上の学力があるものと判定した。</p>		
論文審査の結果	合格	不合格	学力の確認の結果
			合格
論文審査日	平成30年 8月14日		最終試験日
			平成30年8月14日

学位論文審査及び学力の確認の結果等報告書

平成30年9月6日

報告番号 乙	第 号	氏 名	吉岡 史隆		
審 査 員	主 査	松尾 宗明			
	副 査	園畑 素樹			
	副 査	中園 貴彦			
論文題名	題 名 Curved Planar Reformation for the Evaluation of Hydromyelia in Patients With Scoliosis Associated With Spinal Dysraphism. 雑誌名, 巻 (号のみの雑誌は号), 頁-頁, 発行西暦年 Spine, 43, E177-E184, 2018				
論文審査 結果の要旨	<p>本論文は、二分脊椎の術後再係留症候群の検出の指標となる水髄症の画像評価を、側弯症を伴う症例で可能にすることを目的としたものである。本研究では画像再構成法である Curved Planar Reformation (CPR) を用い、側弯症患者の脊柱管内構造の視認性を向上し、水髄症の評価を可能とした。研究方法としては、Cobb 角 20° 以上の側弯症を伴い、再構成に必要な MRI 画像が撮像された二分脊椎患者 11 例を対象とした。うち 5 例で水髄症を合併していた。3DCISS 画像を元に CPR 画像を作成した。水髄症合併例では、水髄症の長径、短径、水髄症部脊髓最大径の計測を 3 名の検者で行い、従来の T2 WI 矢状断での計測と比較し、検者間の誤差を検討した。その結果、全例で脊髓の直線化が可能で、水髄症合併例では、長径、短径、脊髓最大径が測定できた。特に長径の計測では、CPR 画像による計測は従来の T2 WI 矢状断での計測と比較し、有意に検者間の誤差が少なかった(SD: p=0.014, CV: p=0.013)。</p> <p>CPR 画像は解剖学的位置関係を喪失してしまう欠点を持つが、二分脊椎、特に側弯症を合併しやすい割髄症で正確な経時的变化を検出することが可能である。</p> <p>以上の知見は、二分脊椎に伴う側弯症患者の脊柱管内を可視化し、水髄症を合併した症例での経時的観察の精度向上に寄与し、再係留への適切な対応を可能とするものであり、意義あるものと考えられる。</p> <p>よって本論文は、博士(医学)の学位論文として価値あるものと認めた。</p>				
学力の確認の 結果の要旨	<p>学力の確認は口頭試問により行った。</p> <p>脳神経外科学に関し、種々質問を行い、特に小児領域について詳しい説明を求めたが、いずれについても満足すべき答弁を得た。</p> <p>また、専攻学術に関しても大学院博士課程を終えて学位を授与される者と同程度の学識を有し、かつ、研究指導する能力も十分であることを認めた。</p> <p>外国語は英語について試問を行ったが、外国語文献を自由に利用しうる能力があることを認めた。</p> <p>よって、審査員合議のうえ、本研究科博士課程を修了したものと同等以上の学力があるものと判定した。</p>				
論文審査の結果	合格	不合格	学力の確認の結果	合格	不合格
論文審査日	平成30年9月5日		最終試験日	平成30年9月5日	




学位論文審査及び学力の確認の結果等報告書

平成 30年 10月 2日

報告番号 乙	第 号	氏 名	永 嶋 太
審 査 員	主 査	相島慎一	
	副 査	阿部 晋也	
	副 査	本岡 栄三郎	
論文題名	題 名 High-dose Factor XIII administration induces effective hemostasis for trauma-associated coagulopathy (TAC) both in vitro and in rat hemorrhagic shock in vivo models 雑誌名, 巻 (号のみの雑誌は号), 頁-頁, 発行西暦年 Journal of Trauma and Acute Care Surgery, Volume 85, Number 3, 588-597, 2018		
論文審査結果の要旨	<p>外傷性凝固障害 (Trauma-associated coagulopathy; TAC) は外傷の致死的合併症である。血液凝固系第 13 因子 (FXIII) は凝固カスケードの最終段階でフィブリン血栓を安定化させる。本研究では FXIII が TAC 状態を改善させるか否か <i>in vitro</i> および <i>in vivo</i> で評価することを目的とした。</p> <p><i>in vitro</i> では t-PA による線溶亢進および希釈性凝固障害状態を作成し、FXIII 投与の有無で ROTEM および Sonoclot を用いて凝固反応を解析した。<i>in vivo</i> では TAC に類似した凝固障害をラット肝損傷モデルで作成した上 FXIII を投与し、生存期間、腹腔内出血量、凝固反応を解析した。</p> <p>その結果、<i>in vitro</i> および <i>in vivo</i> において FXIII は血栓の強度、線溶亢進、血小板機能を改善させた。<i>in vivo</i> では腹腔内出血を減少させ、生存期間も延長させた。さらに FXIII 投与による副作用は病理学的に認めなかった。</p> <p>FXIII は線溶亢進に抵抗を示し、血小板機能に影響を与え、出血量や生存時間も改善させたため TAC に対する新たな治療戦略になり得ると考えられた。本研究結果は、外傷治療に対する FXIII 因子の効果について、新しい知見を加えたものであり、意義あるものと考えられる。</p> <p>よって本論文は、博士 (医学) の学位論文として価値あるものと認めた。</p>		
学力の確認の結果の要旨	<p>学力の確認は口頭試問により行った。</p> <p>外傷治療学や血液凝固に関し、種々の質問を行ったが、いずれについても満足すべき答弁を得た。</p> <p>また、専攻学術に関しても大学院博士課程を終えて学位を授与される者と同等以上の学識を有し、研究指導する能力も十分であることを認めた。</p> <p>外国語は英語について試問を行ったが、外国語文献を自由に利用しうる能力があることを認めた。</p> <p>よって、審査員合議のうえ、本研究科博士課程を修了したものと同等以上の学力があるものと判定した。</p>		
論文審査の結果	合格	不合格	学力の確認の結果
論文審査日	平成 30年 10月 2日	最終試験日	平成 30年 10月 2日

学位論文審査及び学力の確認の結果等報告書

平成 30 年 11 月 7 日

報告番号 乙	第 号	氏 名	多胡 素子
審 査 員	主 査	安西 慶三	
	副 査	江口 有一郎	
	副 査	尾崎 岩太	
論文題名	題 名 Efficacy and safety of sitagliptin in elderly patients with type 2 diabetes mellitus 雑誌名, 巻 (号のみの雑誌は号), 頁-頁, 発行西暦年 Geriatrics & Gerontology International, Volume 18, 631-639, 2018		
論文審査結果の要旨	<p>本論文は, 2 型糖尿病におけるシタグリプチンの効果と安全性の評価を年齢別に述べている。</p> <p>本研究は多施設共同の前向き試験である The Saga Challenge Anti-Diabetes Observational Study for Sitagliptin(S-DOG) 試験のデータを用いている。2 型糖尿病患者 188 人を年齢別 3 群 (65 歳未満、65 歳から 74 歳、75 歳以上) に分けシタグリプチン 50-100mg を 12 ヶ月間投与した。その結果 HbA1c は有意に低下し、3 群間で HbA1c の変化に有意な差はなかった。65 歳以上の群では BMI 別の 2 群ともに HbA1c は有意に低下し、2 群間で HbA1c の変化に差はなかった。有害事象は 65 歳以上の患者の 10.3% に認めしたが、高齢者で重要な有害事象となりうる eGFR の低下、低血糖を含めて年齢別 3 群で発症に差はなかった。</p> <p>以上の成績は, シタグリプチンの高齢 2 型糖尿病における有効性および安全性について新しい知見を加えたものであり, 意義あるものと考えられる。よって本論文は, 博士 (医学) の学位論文として価値あるものと認めた。</p>		
学力の確認の結果の要旨	<p>学力の確認は口頭試問により行った。</p> <p>糖尿病学に関し, 種々質問を行い, 特に糖尿病薬の有効性と安全性について詳しい説明を求めたが, いずれについても満足すべき答弁を得た。</p> <p>また, 専攻学術に関しても大学院博士課程を終えて学位を授与される者と同等以上の学識を有し, かつ, 研究指導する能力も十分であることを認めた。</p> <p>外国語は英語について試問を行ったが, 外国語文献を自由に利用しうる能力があることを認めた。</p> <p>よって, 審査員合議のうえ, 本研究科博士課程を修了したものと同等以上の学力があるものと判定した。</p>		
論文審査の結果	<input checked="" type="radio"/> 合格	<input type="radio"/> 不合格	学力の確認の結果
論文審査日	平成 30 年 11 月 7 日	最終試験日	<input checked="" type="radio"/> 合格 <input type="radio"/> 不合格
			平成 30 年 11 月 7 日

平成30年11月26日

報告番号 乙	第 号	氏 名	永田 晃子
審 査 員	主 査	野田 孝一	
	副 査	野口 満	
	副 査	阿部 尚一	
論文題名	題 名 Risks and Benefits of Sodium Polystyrene Sulfonate for Hyperkalemia in Patients on Maintenance Hemodialysis 雑誌名, 巻 (号のみの雑誌は号), 頁-頁, 発行西暦年 Drugs in R&D, Volume 18, 231-235, 2018		
論文審査 結果の要旨	<p>高 K 血症は透析患者の致死的不整脈の原因となる。現在、高 K 血症治療に使用できる内服薬は、イオン交換樹脂のポリスチレンスルホン酸 Na (Na-resin) とポリスチレンスルホン酸 Ca (Ca-resin) の 2 剤である。Na-resin と Ca-resin の治療効果の比較と、Na-resin の Na 負荷が体液貯留に影響しているかを検討した。対象は当院で維持透析をしている患者で、Ca-resin から Na-resin に切り替えた 11 例、Na-resin を新規に開始した 29 例。Na-resin 開始前後それぞれ 4 週間の血液データ (K, Na, Ca, Cl, P, 推定 HCO₃⁻)、血圧、透析間の体重増加率 (%) を比較検討した。血清 K の平均は、切り替え群では 5.5±0.6 から 4.9±0.6mEq/L に、新規開始群では 5.9±0.4 から 4.7±0.6mEq/L に有意に低下した。新規開始群の血清 Na は 137.4±2.3 から 139.0±2.5mEq/L まで有意に上昇したが、正常範囲内にとどまった。ポリスチレンスルホン酸樹脂に対するイオン親和性は Na<K<Ca なので、Na-resin のほうが Ca-resin より K 吸着力が強く、実際にそのような結果であった。高 K の治療として Na-resin を 10g/日程度の低用量で使用することはメリットがあることが示された。</p> <p>以上の成績は、透析患者の高 K 血症の治療に関して新しい知見を加えたものであり、意義あるものと考えられる。よって本論文は、博士 (医学) の学位論文として価値あるものと認めた。</p>		
学力の確認の 結果の要旨	<p>学力の確認は口頭試問により行った。</p> <p>種々質問を行い、いずれについても満足すべき答弁を得た。</p> <p>また、専攻学術に関しても大学院博士課程を終えて学位を授与される者と同等以上の学識を有し、かつ、研究指導する能力も十分であることを認めた。</p> <p>よって、審査員合議のうえ、本研究科博士課程を修了したものと同等以上の学力があるものと判定した。</p>		
論文審査の結果	合格	不合格	学力の確認の結果
			合格
論文審査日	平成30年11月26日		最終試験日
			平成30年11月26日

学位論文審査及び学力の確認の結果等報告書

平成30年12月20日

報告番号 乙	第 号	氏 名	坂本 佳子
審 査 員	主 査		安西 慶三
	副 査		江口 有一郎
	副 査		尾崎 岩太
論文題名	題 名 Effects of sitagliptin beyond glycemc control: focus on quality of life DPP-4 阻害薬の血糖コントロールと QOL に対する効果の検討 雑誌名, 巻 (号のみの雑誌は号), 頁一頁, 発行西暦年 Cardiovascular Diabetology. 12:35, 1-9, 2013		
論文審査 結果の要旨	<p>本論文は、2型糖尿病患者における DPP-4 阻害薬の血糖と QOL に対する効果と安全性について述べている。</p> <p>本論文は食事療法、運動療法または従来の糖尿病治療薬の投与でも HbA1c が 6.2% 以上の 20 歳以上の 2 型糖尿病患者を対象に多施設の単群プロトコールでシタグリプチン 50~100mg/日の新規または既処方薬への追加投与を 12 ヶ月行った。その結果、有効性解析対象 188 例について HbA1c と空腹時血糖値は有意に低下し、血圧や中性脂肪、総コレステロール値においても有意に低下した。QOL 評価には EQ-5D、EQ-VAS、ピッツバーグ睡眠質問票 (PSQI)、糖尿病症状スコア (DSS) を用い、PSQI と DSS において有意な低下を認めた。PSQI と HbA1c の低下度には相関は認められず、その効果は一部血糖非依存性であることが示唆された。</p> <p>以上の成績は、2 型糖尿病患者への DPP-4 阻害薬投与により、血糖だけでなく睡眠の質の改善作用が初めて明らかにされたものであり、意義あるものと考えられる。</p> <p>よって本論文は、博士 (医学) の学位論文として価値あるものと認めた。</p>		
学力の確認の 結果の要旨	<p>学力の確認は口頭試問により行った。</p> <p>糖尿病学に関し、種々質問を行い、特に DPP-4 阻害薬と睡眠について詳しい説明を求めたが、いずれについても満足すべき答弁を得た。</p> <p>また、専攻学術に関しても大学院博士課程を終えて学位を授与される者と同等以上の学識を有し、かつ、研究指導する能力も十分であることを認めた。</p> <p>外国語は英語について試問を行ったが、外国語文献を自由に利用しうる能力があることを認めた。</p> <p>よって、審査員合議のうえ、本研究科博士課程を修了したものと同等以上の学力があるものと判定した。</p>		
論文審査の結果	<input checked="" type="radio"/> 合格	<input type="radio"/> 不合格	学力の確認の結果
論文審査日	平成30年12月20日	最終試験日	平成30年12月20日

学位論文審査及び学力の確認の結果等報告書

平成31年 1月 8日

報告番号 乙	第 号	氏 名	相原 秀俊
審 査 員	主 査	杉岡 隆	
	副 査	浅見 豊子	
	副 査	原 めぐみ	
論文題名	<p>題 名 Visual Impairment, Partially Dependent ADL and Extremely Old Age Could be Predictors for Severe Fall Injuries in Acute Care Settings</p> <p>雑誌名, 巻 (号のみの雑誌は号), 頁-頁, 発行西暦年 International Journal of Gerontology, Volume 12, 175-179, 2018</p>		
論文審査 結果の要旨	<p>本論文は、入院中の患者が治療を要する転倒、外傷を引き起こす要因について言及している。</p> <p>この研究は、地域の急性期病院入院中に転倒を起こした全ての成人患者について、2年10か月分の電子カルテを後ろ向きに調査したもので、計371名が対象となった。アウトカムをインシデントレベル2以下と3a以上の2群に分け、関連しそうな各種要因についてそれぞれ単変量解析を行い、有意であったものについて多変量解析を行った。その結果、視力障害がある、日常生活自立度で寝たきり度A、年齢が85歳以上、の3つの要因が、有意にインシデントレベル3a以上の転倒と関連していた。</p> <p>以上の結果は、入院患者の治療を要する転倒、外傷に関して新しい知見を加えたもので、患者アウトカムや医療コストの改善につながり、意義あるものと考えられる。</p> <p>よって本論文は、博士（医学）の学位論文として価値あるものと認めた。</p>		
学力の確認の 結果の要旨	<p>学力の確認は口頭試問により行った。種々質問を行い、それぞれ詳しい説明を求めたが、いずれについても満足すべき答弁を得た。</p> <p>また、専攻学術に関しても大学院博士課程を終えて学位を授与される者と同等以上の学識を有し、かつ、研究指導する能力も十分であることを認めた。</p> <p>外国語は英語について試問を行ったが、外国語文献を自由に利用しうる能力があることを認めた。</p> <p>よって、審査員合議のうえ、本研究科博士課程を修了したものと同等以上の学力があるものと判定した。</p>		
論文審査の結果	合格	不合格	学力の確認の結果
	合格	不合格	
論文審査日	平成31年 1月 8日		最終試験日
	平成31年 1月 8日		

学位論文審査及び学力の確認の結果等報告書

平成31年 1 月 7 日

報告番号 乙	第 号	氏 名	三池 徹
審 査 員	主 査	末岡 榮三朗	
	副 査	相島 慎一	
	副 査	城戸 瑞礼	
論文題名	題 名 Effects of hyperbaric exposure on thrombus formation 雑誌名, 巻 (号のみの雑誌は号), 頁-頁, 発行西暦年 Undersea and Hyperbaric Medicine, Volume.43, 233-8, 2016		
論文審査 結果の要旨	<p>高気圧酸素治療が、血小板凝集能を亢進させるという報告に基づき、血栓性イベントを増加させる可能性が示唆されている。今回筆者らはより生体に近い環境で血栓形成能を測定できる T-TAS[®]を使用し血栓形成能の変化を解析した。健常ボランティア (平均 28.8 歳) 10 人から検体を採取し、試験管内で加圧群と非加圧群を作成した。両群の検体を加圧直後、加圧後 20 分、加圧後 40 分のタイミングで T-TAS[®]を使用し血栓形成能を測定した。暴露群は血栓形成開始時間が有意差を持って延長し血栓形成能は低下していた。また時間経過と共に血栓形成能は回復した。今回の T-TAS[®]を用いた解析は、高圧酸素下の血栓形成能については過去の報告と異なる結果となった。この結果については T-TAS[®]の実験系が、生体内での血栓形成過程をより複合的に検討する系であることから生じると考えられた。以上の成績は、高圧酸素療法における血栓症の発症のリスクに対する考察について、新しい知見を加えたものであり、意義あるものと考えられる。よって本論文は、博士 (医学) の学位論文として価値あるものと認めた。</p>		
学力の確認の 結果の要旨	<p>学力の確認は口頭試問により行った。</p> <p>様々な病態における血栓形成能の違いや機序について、種々質問を行い、特に高圧酸素療法における、生体反応について詳しい説明を求めたが、いずれについても満足すべき答弁を得た。</p> <p>また、専攻学術に関しても大学院博士課程を終えて学位を授与される者と同等以上の学識を有し、かつ研究指導する能力も十分であることを認めた。外国語は英語について試問を行ったが、外国語文献を自由に利用しうる能力があることを認めた。よって、審査員合議のうえ、本研究科博士課程を修了したものと同等以上の学力があるものと判定した。</p>		
論文審査の結果	合格	不合格	学力の確認の結果
論文審査日	平成31年 1 月 7 日		最終試験日
			合格
			不合格
			平成31年 1 月 7 日